



本はともだち

～山口県子ども読書支援センターニュース～ No.197 2026.1.31発行

山口県子ども読書支援センター
(山口県立山口図書館) 発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース～」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。
読者登録の方法は県立図書館・山口県子ども読書支援センターのホームページをご覧ください。

<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/>

【山口県立山口図書館から臨時閉館のお知らせ】

山口県立山口図書館は、照明のLED化工事のため、

令和8年1月19日（月）から3月2日（月）まで 臨時閉館いたします。

○臨時閉館中のサービスについては、こちらをご覧ください。

<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/post-24585/>

《学校等への団体貸出について》

○臨時閉館中も、メールやFAXでお申し込みの上、団体貸出をご利用いただけます。館内での閲覧や選書はできません。貸出・返却は1階事務室となります。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 ⇒



★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和8年3月10日（火）11：00～11：20

*2月のおはなし会は、臨時閉館中につきありません。

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：幼児

○定員：10組程度

《1月のおはなし会で使った本》

『とうもろこしぬぐぞう』 はらしまみ/作・絵 ポプラ社2021.6

『ぼくのからだここなあに』 はたこうしろう/作・絵 ポプラ社 2002.5

『ゆたんぽくん』（紙芝居） おおたか蓮/脚本 童心社 2012.2

『わにわにのおふろ』（大型絵本） 小風さち/ぶん 福音館書店 2009.1

★山口県児童センター「にじいろひろば」にて県立図書館職員による「おはなしの時間」があります。

○日時：令和8年2月6日（金）・13日（金）・20日（金）10時から11時

○場所：山口県児童センター（山口市維新公園4-5-1）

○申し込み方法：当日9時45分から受付にて整理券配布（先着20組）

※詳しい内容は、こちらをご覧ください。

<https://centaro24.jimdoweb.com/児童センター行事/>

★山口県動物愛護センター「ちっちゃなふれあい会」にて県立図書館職員が読み聞かせをします。

○日時：令和8年2月17日（火）10時から11時30分

○場所：山口県動物愛護センター（山口市陶10943-12）

※詳しい内容は、こちらをご覧ください。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/doubutuaigo/>

★「コトサイト」にて県立図書館・県立博物館・県立美術館による読み聞かせ&ものづくり出前講座を開催します。

○日時：令和7年2月8日（日）10時30分から11時45分・13時30分から14時45分

○場所：コトサイト（山口井筒屋2階）

※詳しい内容は、こちらをご覧ください。

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/200/188328.html>

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『くいしんぼゴリラのうた』 阿部直美/詞 くさかみなこ/絵 ひかりのくに 2025.11 ¥1200

くいしんぼなゴリラがみつけたのは、バナナにレモン、それからたまねぎ。かわをむいて、パッコンとたべるよ。どんなあじかな。童謡「くいしんぼゴリラのうた」の歌詞に沿って展開する歌絵本。ゴリラが食べ物を見つけるページでは、それぞれの食べ物の形にインクが盛り上がり、触って楽しむこともできる。裏表紙に、作詞者監修の歌が視聴できる二次元コードと楽譜あり。

<絵本-3, 4歳から>

『おやつきかんしゃ』 久保田寛子/作 あかね書房 2025.11 ¥1600

ネコさんがみちをあるいていると、おおきなドーナツがおちてきた。やまのうえのドーナツえきまでとどけたネコさんは、かもつれっしやにつんだドーナツがおちないよう、うしろののっていくことに。とちゅうのえきでおせんべいやケーキものせ、もくてきちへむかうなか、ネコさんのおなかがなって…。温かなお話とともに、身近なお菓子を通して基本の形や数にも触れられる絵本。

『おりがみのしろちゃん』 かとうまふみ/作 BL出版 2025.11 ¥1500

それぞれなりたいたちがある、いろとりどりのおりがみのなかで、じぶんがなこになりたいのかかわらないしろちゃん。しろいからといって、みんなにおもちやゆきだるまがしいとかってにきめられたくはないが、おってもらえないのもいやでないと、はさみのチョコキチョコキきょうたいが、ゆきのけっしょうのことをおしえてくれて…。実際の折り紙作品の写真も登場する絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ウマになれたらいいのにな』 ソフィー・ブラッコール/さく 山口文生/やく 評論社 2025.11 ¥2000

ウマだったらいいのにな。いきたいところはどこでもいけるし、いもうとをせなかののせてあげることもできる。すいていたいかわいだってだいかつやく。きままにどろあそびをして、たったままねて、ゆめのなかでもおもしろいしりまわるんだ。ウマに憧れる車椅子の子どもの空想を、力強いイラストレーションで表現する絵本。小物などのきめ細かな描写からも物語が感じられる。

『おどっているよ、わたしので 目で見ることばでおはなししたら』 ジョアンナ・ケ、チャリーナ・マルケス/文 フラン・アルヴァレス/絵 ミレナ・イノセンシオ・ドミンゴ/訳 偕成社 2025.11 ¥1900

おどっているようなてのうごきでおはなしするマイは、サムのうちのとなりにひっこしてきたおんなのこ。サムとなかよくなったマイは、おたがいがもっとわかりあえるように、サムのてにダンスをおしえてくれて…。細やかな手話表現を通じてふたりの友情が描かれる絵本。巻末に手話についての解説、見返しに、作中のフィリピン手話に対応する日本手話・国際手話のイラストあり。

<絵本-小学校低学年から>

『まてまて、ごめん。』 渡辺朋/作 早川世詩男/絵 童心社 2025.11 ¥1600

クラスメイトのハルがかわいたえを、うっかりやぶってしまったそうた。あやまろうとてがみをかいたら、てがみから「ごめん。」のもじがこげだした。まちのひとたちの「ごめん」までつれてこげるせいで、しょうてんがしいはだいこんらん。おなじようなもじのなかから、やっとしぶんの「ごめん。」をみつけたそうただが…。素直に謝ることの難しさと大切さをユーモラスに描く絵本。

『かんじ こびとがつくるもじとことば』 すずきてつお/さく・え アリス館 2025.12 ¥1700

せんせいかんじむったすきに、こっそりしごとにかかるとこびとたち。きのえだなどのざいりょうをあつめて、まずはいろいろなもじをつくる。つぎにもじをくみあわせてあたらしいかんじをつくり、ならべてぶんしょうへ。これをかみにうつすと…。漢字の形のなりたちが見える絵本。巻末に解説、付録に小学一年生で勉強する漢字表あり。グラフィックデザイナーの作者による初の絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『みえないおしごと』 とくながけい/さく・え 中央公論新社 2025.11 ¥1700

赤い人と青い人が交代で立っている信号機、鳥が弓っぱり上げるエレベーター、ハムスターが走って回す扇風機…人々の便利な生活は、実は小さな仕事人たちの見えないがんばりに支えられているのだ。身近なものの仕組みを自由な発想で描いた、意外性が楽しい絵本。巻末に仕事人たちの日常を綴る四コママンガあり。書店員が選ぶ絵本新人賞2025 大賞および絵本専門士賞受賞作。

<読み物-小学校低学年から>

『まこちゃんとコトバロボ』 村上しいこ/作 たんじあきこ/絵 佼成出版社 2025.10 ¥1400

おばあちゃんからもらったドリルの問題に、頭をかかえるまこちゃん。ついに逃げ出したところで国語のことならなんでも教えてくれる「コトバロボ」と出会い、宿題やドリルをコトバロボに任せきりにしてしまう。ある日、おばあちゃんから、ドリルを成長の記念に取っておくと知らされて…。学び方や誠実に向き合うことの大切さを伝えてくれる物語。

『はじまりはわざとじゃない!』 かさいまり/作 北村みなみ/絵 くもん出版 2025.11 ¥1400

小学2年生の男子るいとつばさは、お互いにもやもやしている。きっかけは、つばさがるいにおぶつかってきたこと。謝ってほしいるいと、わざとじゃないと言うつばさ。同じ出来事に対して、誤解から生じる居心地の悪さや子どもならではの葛藤が、るいとつばさの視点から交互に描かれる。相手を思う気持ちと、勇気を出して伝えることで深まる友情の物語。

<読み物-小学校中学年から>

『ねぎのねぎしくん』 戸森しるこ/作 伊野孝行/絵 講談社 2025.11 ¥1500

スーパーからの帰り道、街灯に寄りかかり、物思いにふける長ねぎに出会った少年トモ。思わず声をかけるとそれは、しゃべるねぎ「ねぎしくん」。「ねぎはねぎとして生きてゆかねばならない」とねぎの幸せについて語り始め…。トモとねぎしくんのやりとりから「幸せのありがた」を伝えるユーモアあふれる物語。戸森しるこの不思議なイキモノガタリシリーズ第1弾。

『やさしさバトン』 新井けいこ/作 あわい/絵 岩崎書店 2025.11 ¥1300

職場体験に参加した小学4年生の有咲(ありさ)は、受付業務を通して様々な人と接する。損をしたくないと考えがちな有咲は、ケーキと一緒に食べたかったという妹やおこづかいをもらわず祖母を手伝う友人のハルに共感できずにいた。しかし、困っていた有咲を助けたのは、以前声をかけた白杖の女性の知り合いのようで…。優しさでつながっていく人との関わりの中に温まる物語。

<読み物-小学校高学年から>

『ポジション!』 高田由紀子/作 岩崎書店 2025.10 ¥1500

「背が高い」という理由で男子ミニバスケットチームに誘われた小学5年生芽吹。両親から期待されキャプテンを務める晴。家族に複雑な思いを持つ結人。上手になりたい、試合に勝ちたいという思いがそれぞれの少年の視点で綴られる。自分はチームに、友達に、家族に、必要とされているのか、自分のポジションを模索しながらも、勇気を出して前進しようとする少年たちの物語。

『ひとりぼっちのベア』 ハンナ・ゴールド/作 田中奈津子/訳 静山社 2025.12 ¥1850

自然科学調査を行う科学者の父と北極圏の島に同行することになった11歳の少女エイプリル。亡くなった母を思い落ち込む父と関わろうとするが思うようにいかない。ある時、迷子のホッキョクグマと出会い故郷の島にかえそうと決心するが…。温暖化によって破壊される環境を背景に少女とクマとの深い絆を描く。本作はブルー・ピーター賞、ウォーターストーンズ児童書賞を受賞。

<読み物-中学生から>

『ヨコスカストーリー』 花形みつる/著 理論社 2025.10 ¥1500

小学6年生のよし子が、同級生で亜麻色の髪哲朗にプリントを届けるため米軍横須賀基地近くのドブ板と呼ばれる繁華街へ向かう、1964年の序章。続く1971年の物語では、よし子の弟で中学2年生の光毅が暗褐色の肌で喧嘩っ早いウェイティと交流していく。横須賀育ち・在住の作家による、外国にルーツを持つことで差別を受ける子どもたちと、彼らと友情を育む姉弟の物語。

『クローバー』 ナ・ヘリム/著 キム・キョンスク/訳 講談社 2025.11 ¥1800

両親がおらず祖母と二人で貧しく暮らす、韓国の男子中学生ジョンイン。ある日学校の裏庭のゴミ捨て場で1匹の黒猫と出会うが、その黒猫の正体は悪魔ヘレルだった。休暇中の悪魔と過ごす不思議な一週間を通じて、困難な状況にある少年が、園芸好きなクラスメイトや周囲の大人と関わりながら自分の人生に向き合う一歩を踏み出す物語。第15回チャンピオン青少年文学賞受賞作。

『視線の先のきみと』 神戸遙真/作 くもん出版 2025.11 ¥1500

他人の目が気になるナツと、自身と周囲のイメージの齟齬に悩むアオイは、同じ中学の二年生。海岸の小さな神社へお参りしたことで、ナツは望んだ通りに他人の視線を逸らす能力を、アオイは人の感情が見える能力を得る。ただし、唯一お互いにはこの不思議な力が効かないと気が付いた二人は、少しずつ秘密を共有していくが…。生きづらさと寄り添うことの大切さを描く青春小説。

『奇妙でフシギな話ばかり』 ブルース・コウヴィル/作 金原瑞人/訳 橋賢亀/絵 岩波書店 2025.11 ¥2000

8歳の時に天使から箱をあずかり生涯をかけて守りぬく男、出兵しなかったことで処刑され悔しさのあまり自分の首を抱えて王様のもとに行く青年、狼の群れを託され葛藤する少年…。ユーモアあふれる中に、ホラーも垣間見える風変わりな幻想の世界。発想がユニークな9つの世界の短編集。著者はファンタジーを中心に多くのYA・児童書を手がける。

<ノンフィクション-小学校低学年から>

『おにぎりずかん』 新井洋行・田中六大・中垣ゆたか/作 おにぎり協会/監修 講談社 2025.11 ¥1500

おにぎりが大好きなむすびちゃんが訪ねたのは「おにぎりどうじょう」。むすびちゃんは、おにぎりマスターの元で、おにぎりについて学ぶことに。米の品種やおにぎりの歴史、様々な具、おにぎりの形の変遷等について分かりやすく紹介。おにぎりクイズ、握り方の手順が分かるおにぎりラップも掲載。三人の絵本作家が描く、おにぎりについて学べる絵本。

『小学校ってどんなところ?』 富山正人/監修 世界文化社 2025.12 ¥2000

小学1年生の一日や学習内容、生活の様子、人との関わりについて、豊富な写真やシンプルなイラストで紹介。金銭や交通、防災対策、インターネット、プライベートパーツ等、最新の情報も網羅。各項目に保護者向けのアドバイスの掲載あり。書き込める「るすばんれんらくひょう」あり。小学校入学準備から低学年までの親子を対象に一緒に読んで学べる1冊。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『マボロシ城のお城の歩き方』 田村淳/著 マイクロマガジン社 2025.11 ¥1600

「マボロシ城」と書かれた不思議な本の世界に入り込んだ小学生のリクとサキ。元の世界に戻るため、足軽マスター・アツシと天守を目指す。マンガで描かれるストーリーの展開に合わせて、お城について豊富な写真やコラムをもとに紹介する入門書。築城名人列伝、お城の歩き方Q&Aの掲載あり。著者は、現在13城の観光大使を務める山口県出身のタレント。

『消えた学び舎変わりゆくまち』 豊田直巳/写真・文 農山漁村文化協会 2025.11 ¥2500

福島県浪江町は自然豊かな町でかつて6つの小学校があった。東日本大震災と原発災害、避難の長期化で、学び舎の解体が進められた。放射能の危険性と不安から故郷を追われた人々の現実や暮らし、思いや願いを時系列で比較しながら写真と文で伝える。原発災害をどう記憶し、どう生きるかを問いかける写真絵本。第66回産経児童出版文化賞大賞「それでも『ふるさと』」の続編。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『わたしは書体デザイナー』 高田裕美/著 Gakken 2025.11 ¥1600

「書体」とは、ある考え方のもと同じ雰囲気をもたせてデザインした文字の集まり。読み手の特性や身体的な理由から、書体が変わると読みやすくなることも。少しでも読みやすい書体を届けたいという思いから「UD デジタル教科書体」を作った書体デザイナーの奮闘の記録。書体の開発を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学べる1冊。

『色のひみつ図鑑』 橋本実千代/監修 小学館 2025.12 ¥2500

青は気持ちを落ち着かせる、赤は情熱を感じさせる、色を感じるには光が必要…など、色と光について解説する。色の認識・印象・基本・知識の4章からなり、化学、心理学、歴史、芸術の多角的な視点から色や光の不思議について、豊富な資料をもとに紹介する。蜂や非常口などの身の回りの「色」の理由を紐解き、生活に役立つ色の情報が満載の1冊。

<ノンフィクションー中学生から>

『下積み図鑑 すごい人は無名のとき何をしていたのか?』 真山知幸/著 伊達努/イラスト 笠間書院 2025.12 ¥1800

英語が分からないまま海外に行き、名峰に挑戦し続けた植村直己、法律の仕事しながら音楽家を目指したチャイコフスキー。日本や世界の偉人29人が下積み時代をどのように過ごして自分の道を突き進んだのかに着目し、エピソードや年表をもとに簡潔に紹介。「好きや得意を伸ばす」「海外で道をひらく」等全6章。全ての漢字にルビあり。巻末に参考文献あり。

『多様な性を生きる』 松岡宗嗣/著 河出書房新社 2025.11 ¥1540

様々な媒体でLGBTQ+関連の情報を発信する著者と、多様な性のあり方を生きる8名との対談の様子をまとめた本。世の中の「ふつう」に当てはまらないことに悩み、壁にぶつかり、孤独を感じながらも、性的マイノリティとして学校生活や社会を生き抜いてきた8名の体験を通じ、今を生きる10代へ人生のヒントを伝える。性のあり方への理解が深まる1冊。巻末に用語解説あり。

『人間と昆虫のこれからを考える』 沼田英治/著 岩波書店 2025.11 ¥880

種類や数が多く時には人に嫌われもする昆虫。本書では人と昆虫の関わりについて、病気の媒介や農業に被害をもたらす害虫とその例、逆に養蜂や養蚕などで恵みをもたらす益虫とその例、マゴットセラピーや食用といった新たな活用方法等を幅広く紹介・解説。昆虫が好きではない人にも届けたい1冊。巻末に、もっと知りたい人に向けた本の紹介、本文中で引用した本の一覧あり。

<研究書>

『名門校の本棚』 平林理恵/著 日経BP社 2025.11 ¥1600

名門校の先生たちは、成長していく中学生・高校生たちにどんな本を薦めているのか。開成、灘、フェリス女学院、聖光学院等8校の教員が、生徒たちに薦めたい本、授業で扱った本、自分の人生に影響を与えた本を、生徒や学校の様子なども交えながら書影付きで紹介。直木賞作家、伊与原新のプロローグも収録。書籍系デジタルメディア『日経BOOKプラス』連載を加筆・修正。

『工藤直子 せかいへのてがみ』 工藤直子/[著] 平凡社 2025.11 ¥2300

教科書にも掲載されている「のはらうた」で、子どもにも広く知られる詩人工藤直子。代表作と素顔をわかりやすく紹介した生誕90年記念ビジュアル本。幼少期から現在までの多くの写真や、谷川俊太郎、中川李枝子、田中和雄（童話屋編集者）たちの寄稿により、詩人の姿が多角的に捉えられる。表紙は息子で漫画家の松本大洋による描きおろし。略年譜、掲載詩の初出一覧あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。

<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

※子どもの本や読書についてのイベント情報をお寄せください
発行：山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館内）

〒753-0083 山口市後河原150-1

TEL:083-924-2113 (直通) FAX:083-932-2817

ホームページ: <https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

Eメール: a50401@pref.yamaguchi.lg.jp
